兒雷也豪傑譚 下の巻

二十五編

志ん板

このうた集

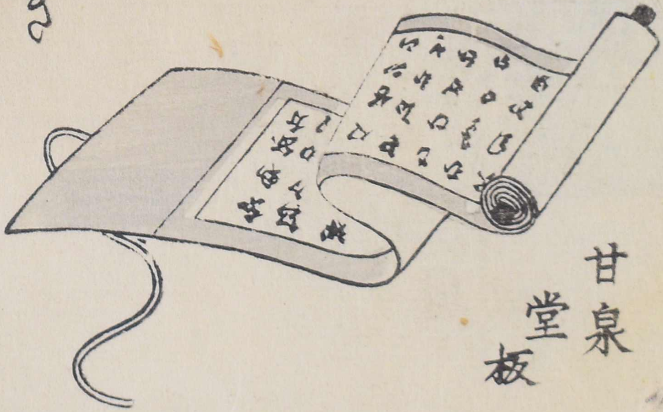
手本

このうた里

種員さく

国貞画

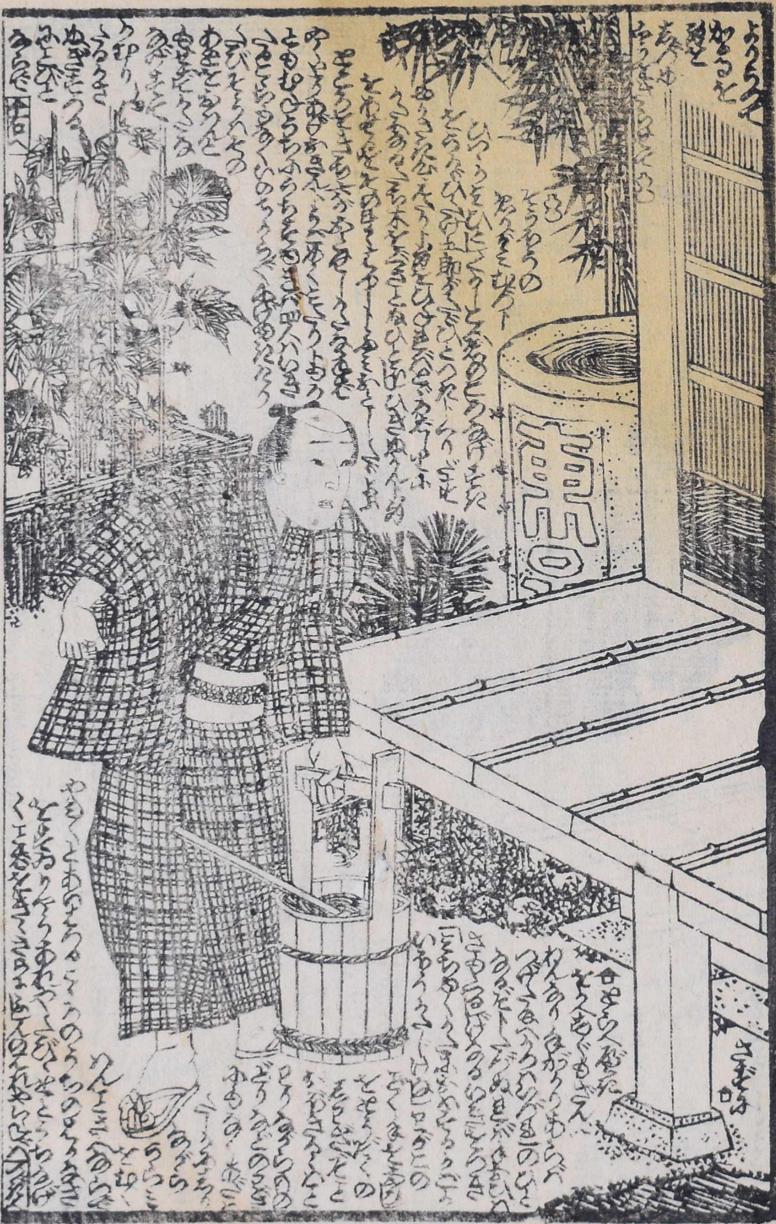
かのまき



甘泉堂板


三の巻





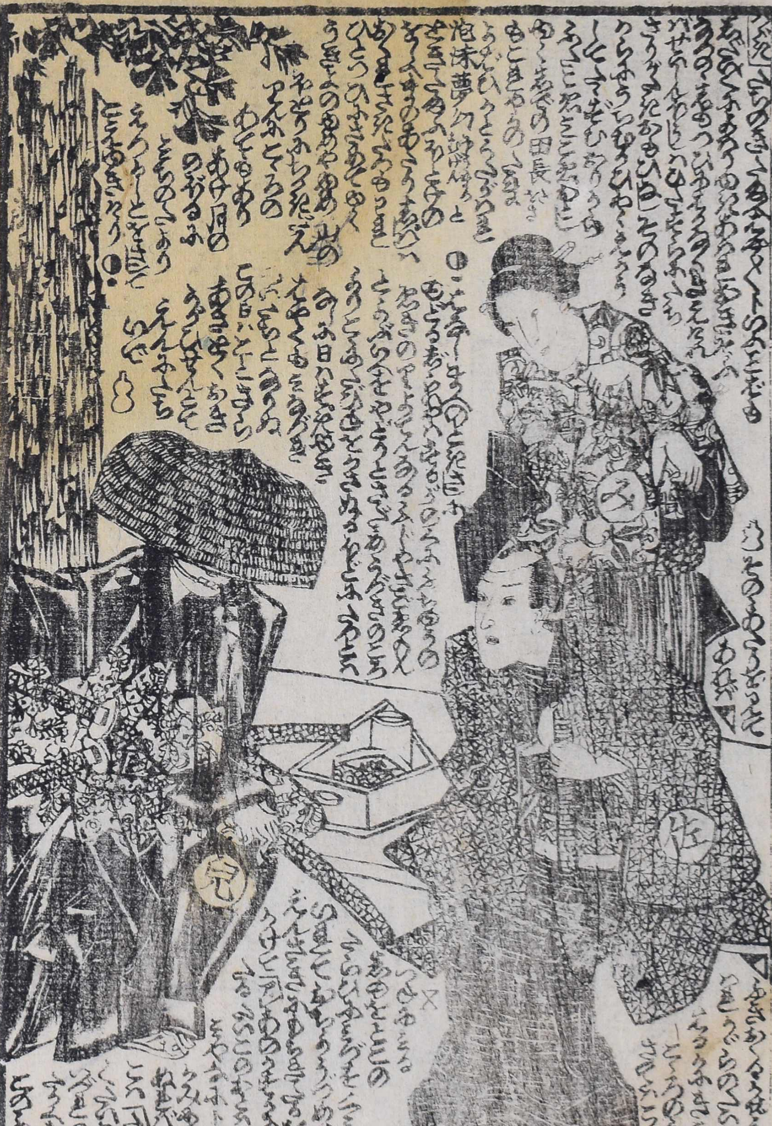


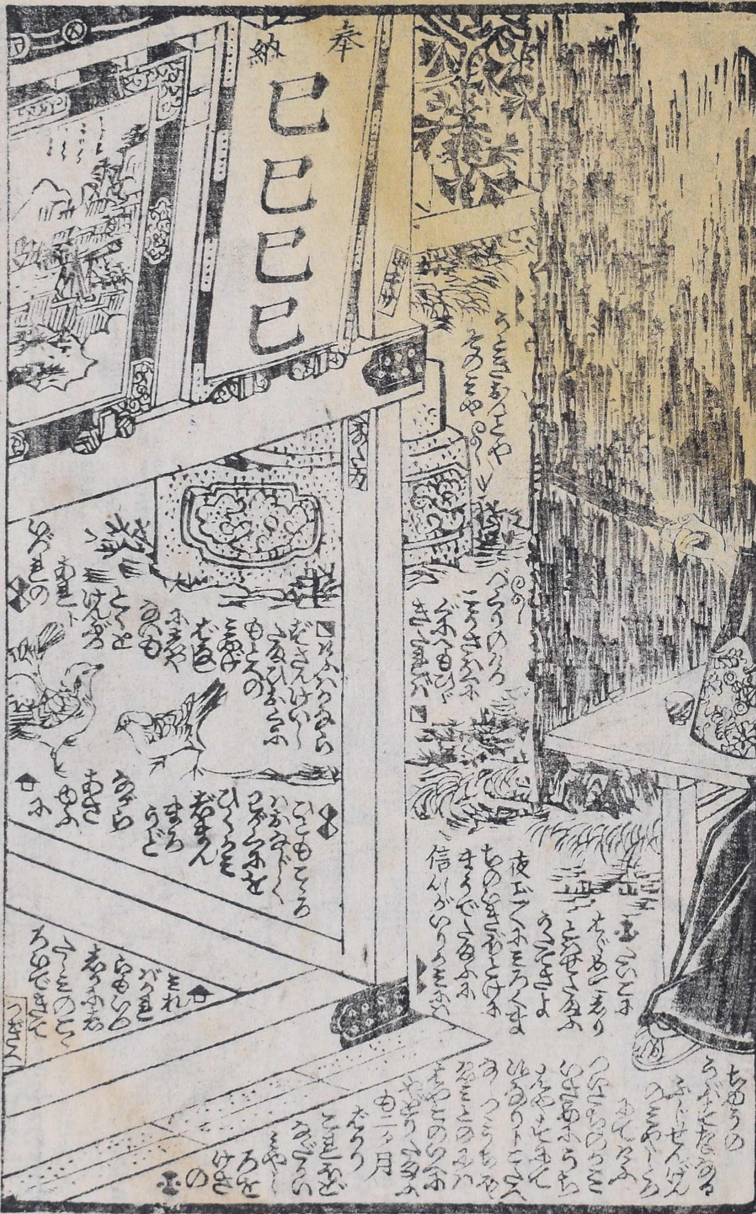



勝保木主膳
曽吉



児雷也十五編





[illegible]

夜ふ[illegible]
信ん[illegible]

つぎへ



つゞき おどけすゞめに

きゝへ、まへに [illegible] その [illegible] とこ [illegible] そのうちに [illegible] ものを [illegible] あさがほの [illegible] を摘 [illegible] 戸を [illegible] [illegible] めがさめ [illegible] きゝ [illegible] ひの [illegible] [illegible] せんげん [illegible] とよ [illegible] かせ [illegible] そりやどの [illegible] ☒

☒やがてひとへのゆめなりけり
○さるがのうちへかへり [illegible] ますますせんげん
のまへ [illegible] [illegible] とも [illegible] [illegible] [illegible] 延喜 [illegible] の [illegible] 木花開耶
姫命 [illegible] の新宮
[illegible] [illegible] 四月の [illegible] 月
[illegible] の日の [illegible] [illegible]

巻へつゞく



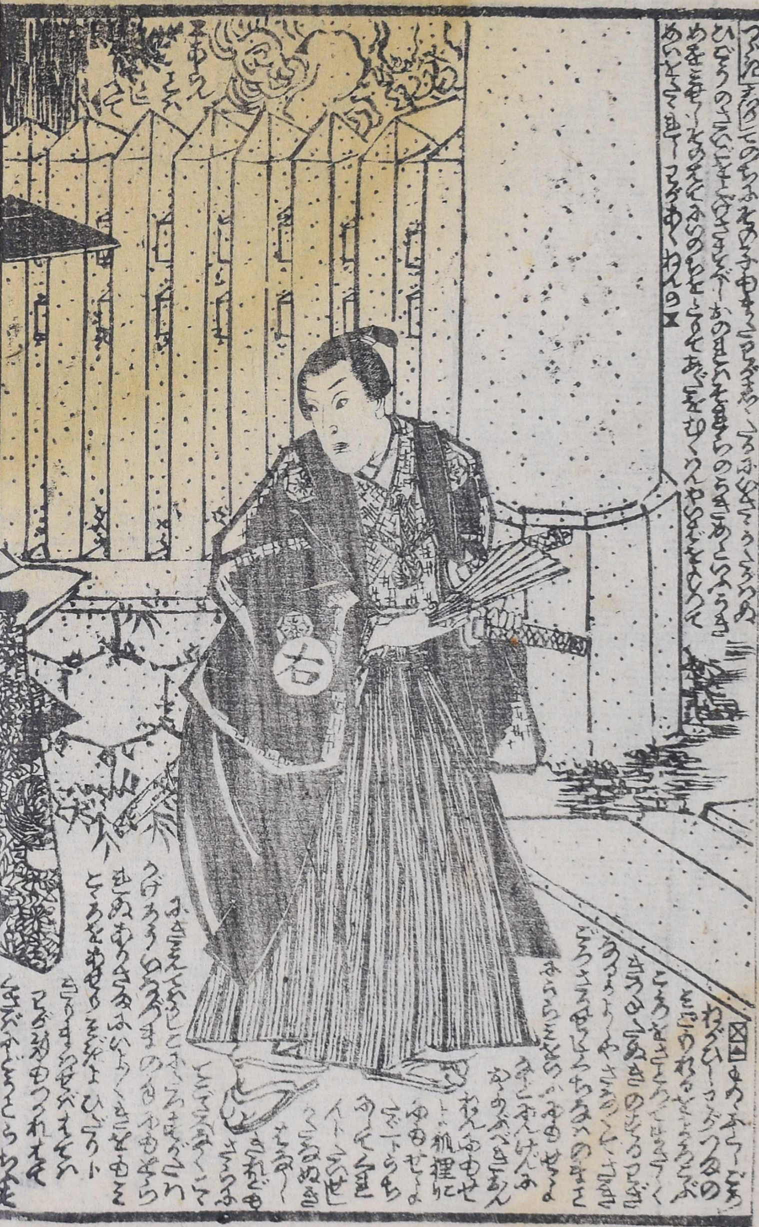
●下へ
[illegible]
これより下へ三丁へ
児雷也へ佐五郎
[illegible]
三の巻よりつゞき
[illegible]
●上へ


此画も佐吾右エ門が
夢の体なり










白



つゞき）かくてけふぞ七日目といふ夜　ふけゆくまゝにあやしげなる

ものおとしてなにやらんあやしき

もの　ちかく

王のさまよくあまり

とりのがれて　よしと

ごぜん人かあと

ふてひそみ

あたりをさそう

まちてゐる　わきに

ゐたり

ちかくもあやしきもの

みえければ　そのよしかくと

きこえける

そのみをあらため

いまはかくとて

とりいだし

ろくまちの

ものしり

うちよりいでたるは

うまれさせたまひし

とりのこのごとく

はじめはそのなを

つけ世にひろめ

そのかみのとき

やがてはあらたに

うちのこのかたちにて

そのふかきなるのみ

いとかしこく

よはひ四十にみちて

かゝるほどに

そのところにおいて

なにごとも

ものゝみちを

つかひ

ひとつのことに

あひたるのみ

ころものすそを

ひきよせ

ついに

その月のうち

ゆくすゑを

よろこび

とのことを

ころを

まつりごとの

あけくれ

月のなかばの

そのはじめの

ことの

あるほどに

そのゆくすゑを

ぐんしよ

きのどくに

ものゝふの

みちのくの

まつはかり

つゞく

玉壺生肌膏（ぎよくこせいきかう）　一貝　三十六孔

やけどきりきずすべてのきずのあといえざるにつけてよし

よくきくのはまことにめづらしきかうやくなり

金瘡用愈　奇功紙（ききうし）　一枚　廿四孔

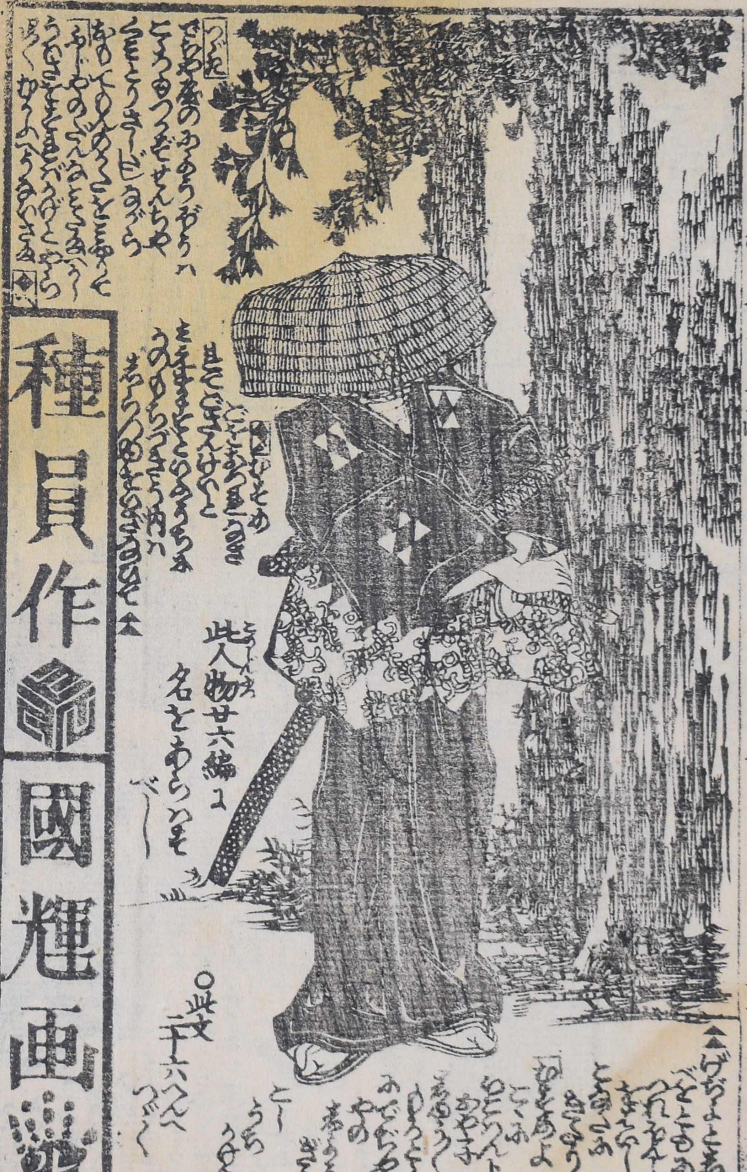
きりきずそのほかとげたちたるときにぬりてよし

とくにちのとまらぬをとめ　はやくいゆる

調合所　新吉原玉楼

取次所　真土山東谷坂下　柳下亭




つゞき
此人物廿六編ニ名をあらはすべし
○此文二十六へつゞく
種員作
國輝画

一 児雷也豪傑譚　四拾弐篇

一 休草紙　拾五篇

一 風俗浅間嶽　拾四篇

一 黄金水大尽盃　拾七篇

書肆 地本問屋

芝神明前
和泉屋市兵衛

銀座[illegible]目
川 支店